

令和元年10月24日

総務企画部総務課長 様

生涯学習課長 竹内 克之

会 議 要 録

名 称	令和元年度 第1回西予市放課後子どもプラン運営委員会	
開 催 日 時	令和元年10月16日(水) 10:00~12:00	
開 催 場 所	西予市教育保健センター 4階 大ホール	
出席者	委 員	会長：河野直樹、副会長：木下弘規、委員：上甲和也、滝澤治、三好智美、岡田逸、大塚晶司、福岡順子、白武和嘉子、樋口志保、木綱恵美、山田里香、大野妙、川上安弘(代理)、高橋真人、藤原由美、宮本純夫、山口聡子 計18名
	その他	教育部長：宇都宮裕、松田禎子、垣内俊樹、富永達也、竹内克之、宇都宮正記、井関修三、細谷涼子、山下元紀、池田瑞恵、中村奈央子、兵頭智、二宮裕一、末光孝紘、赤松和也、菊池由真
	事務局	生涯学習課 中山佑司 計17名
議事内容(要旨)	<p>1 開会</p> <p>2 教育部長挨拶</p> <p>3 会長、副会長の選任について 運営委員会設置要綱第3条に基づき、樋口志保委員の推薦にて会長に河野直樹氏、会長指名にて副会長に木下弘規氏が選任される。</p> <p>4 協議事項 (1) 令和元年度事業の実施状況について ・学校・家庭・地域連携推進事業の実施状況</p> 事務局説明 N-ジオチャレ(山口)…スライドにてN-ジオチャレの活動を報告。	

・放課後児童クラブの活動状況

トトロクラブ（木綱）…対象小学校が宇和町小学校のみとなった。定員を上回る児童を受け入れつつ、小学5，6年生9名が待機児童となっている。病気の子どもが静養しないといけないとき別室がない。

おれんじクラブ（川上）…昨年7月豪雨災害で裏山の土砂崩れがあり、今現在、裏山は整備されて斜面は補強された。大雨警報時におけるおれんじクラブの安全な運営の対応が課題。

明下田クラブ（大野）…昨年7月豪雨災害後、下宇和公民館大ホールを使用。下宇和公民館で行事があるときは、改善センターへ移動しなければならずその時の荷物の移動が大変。

ななほし中川（山田）…利用希望者が40名と増え、施設と中川公民館の2箇所に分かれて実施しており、異学年の交流や職員の連携が取り難い。地域の行事と重なった際、小学校家庭科室を使用させてもらった。アンケートの結果、来年度も40名の見込み。1箇所での実施を希望しているので検討いただきたい。

河野会長…10年前のアンケートでは、学童保育のニーズはなかったが、現在は徐々に増えてきて施設が足りなくなった。災害やニーズ増加による大きな課題がある。

すこやか児童クラブ（藤原）…ここ2，3年で希望者が増えている。本当に必要な人が困っているのが現状。待機の方には空き次第連絡すると伝えている。豪雨での被害はなかったが近くの川があと50cmで氾濫するところだった。避難グッズの備えをしている。

河野会長…それぞれの施設で課題がある。

(2) 各施設の状況について

事務局説明

子育て支援課説明…各学童利用児童数の見込数について説明。宇和町小学校区では1箇所新設予定。明下田クラブについて、小学校付近の旧農協跡地に施設整備を行うため、R2年においても下宇和公民館を利用したい。

河野会長…放課後児童クラブの良さである高学年と低学年の交流が分断とあるが、ななほし中川では1～3年生までの利用である。「異学年の交流」でよいか。

子育て支援課…そのとおり。

河野会長…明下田クラブでは、R3年から新しい施設で学童保育が実施できる目途が立っている。ななほし中川では1施設での実施で学校側と検討しているが、前回のプラン運営委員会において、校長会での学校施設の開放について協議検討をお願いしていた。

上甲委員…校長会では特に話し合いをしておらず、校長会としての考え方は出していない。最終的には学校長の判断となるのか。それとも教育委員会や子育て支援課から施設活用の指示が来るのか。

河野会長…学校単独で話し合いを進めるのか教育委員会としてどのような方向性を持っているのか。

宇都宮部長…具体的な協議はできていないが、可能な範囲で学校施設を使ってほしい。学校の実情に応じて検討したい。使用可能であれば条件など検討を進める必要がある。

河野会長…発足当時は「学校の空き教室はない」というところから出発したが、田之筋小や明浜中など学校施設を開放

してこの事業を行っているところが増えた。放課後子ども総合プランの趣旨からすれば進んできているが、まだ施設の今後の方向性については検討の余地はある。

宮本委員…H26年7月の放課後総合プランの趣旨は、当該事業を見越して施設が不足のときは学校施設の積極的な利用を進めることであると理解している。学校の色々な事情があると思うが、教育委員会として進められていない印象を持った。積極的な開放をお願いしたい。

(3) 施設の使用検討の具体的な手順(案)について
事務局説明…具体的な手順や協定書について説明。

河野会長…中川地区においても手順を踏んで来年度以降の学童保育について検討されることと思う。

協定書(例)第5条(使用許可の取消)について“余裕教室等”とあるが、市内小学校において余裕教室はない。宇和町小や野村小、三瓶小など三学級教室がある学校もあるが、単級の学校だとコンピュータ教室や特別教室など教室を使うことが増えており、余裕教室はまずない。今使っている教室を共用する場合どのようなことに考慮して使用するか。協定書の文言、表現を精査したら良い。

のむらキッズ(高橋)…昨年7月豪雨災害の影響で7/7～7/18までは閉所し、7/19～12/25まで野村小学校の会議室、図書室、家庭科室で使用させてもらった。学校内の移動は安全だったが、問題点はクーラーが設置されるまで暑かったこと、土曜開所時の鍵の受け渡し、1階から3階への移動により見送りの際スタッフが手薄になることである。5か月の間運営させていただいて大変助かった。

滝澤委員…おれんじクラブについて、災害時に裏山が崩れ、一番被害が大きかったのがクラブの部屋だった。立ち上げの際は、学校とクラブとが共存できるよう学校の意見も聞いて

もらいながら検討して施設改修をしていただいた。学校よりもクラブが遅くなる場合の施設管理のことなど環境を整えていただいた。学校施設破損の際の修繕予算について、きちんと分けたつもりだったが災害時には問題が起こった。完全に分けるのも難しく、どう折り合って運営すればいいか問題がある。

(4)「地域と学校の連携・協働体制構築事業」について(国の方向性)

河野会長…野村(N-ジオチャレ)の地域コーディネーター一等との関わり、新しい学校の在り方についての説明である。

事務局から事業概要、補助要件等について説明。

河野会長…国の目標では2022年度までに全小中学校区において、この事業を導入することとしているが、現在の状況と今後の見通しについて教育委員会として説明をお願いしたい。

事務局…まだ見通しが立っていない。現在実施している事業の補助にも影響が及ぶため、今後の方向性を検討したい。

河野会長…子ども教室や児童クラブなど既存事業と新しい国の方策がどう結びついてくのか。市内全小中学校区においても地域コーディネーターを設置し、放課後の子どもの居場所づくりが推進しなければならないのか。

宇都宮部長…コミュニティスクールは今年度から田之筋小と多田小でモデル的に始め、来年度は8校が続き、令和4年度には市内全小中学校に導入する予定。

先般学校長に研修へ行ってもらったが、実施内容が学校によって違う。西予市においては、基本的な法定3権限の協議までとしている。

地域の人々にどこまで関わってもらうかは各学校と地域で

	<p>検討いただき状況に応じて広げてほしい。一律に行っていくものではない。新事業をどのように総合的に進めていくか学校や地域と一緒に考えたい。</p> <p>河野会長…まずこの事業を知り、令和4年度には全小中学校で事業を実施しなければならないことを心づもりしておいてほしい。総合プランとの関わりも考えてほしい。</p> <p>(5) その他 事務局から研修会案内、新プラン行動計画は、子ども子育て支援計画のアンケートを参考に作成予定。</p> <p>Nージオチャレ（山口）…地元講師の他、地域外からも講師に来てもらえるので希望があれば紹介する。</p> <p>6 閉会</p>
備 考	